

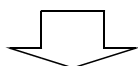
自己評価の方法等について

法科大学院認証評価に関する自己評価担当者に対する研修会

自己評価のプロセス

1 目的の記載

法科大学院の目的の記載



2 第1章～第10章の自己評価

第1章

基準ごとの分析

○基準に係る状況

現在の活動状況（必要に応じて過去にも遡及）を，解釈指針の内容を踏まえて分析し，記述



○優れた点及び改善を要する点等を抽出し，記述

...

第10章

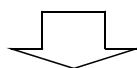
基準ごとの分析

○基準に係る状況

現在の活動状況（必要に応じて過去にも遡及）を，解釈指針の内容を踏まえて分析し，記述



○優れた点及び改善を要する点等を抽出し，記述



自己評価書の作成

「対象法科大学院の現況及び特徴」，「目的」，
「章ごとの自己評価」で構成

自己評価書の構成

I 対象法科大学院の現況及び特徴

II 目的

III 章ごとの自己評価

自己評価書イメージ（全体）

法科大学院認証評価

自己評価書

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻

平成〇〇年〇月
〇 〇 大 学

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻

I 対象法科大学院の現況及び特徴

1 現況

(1) 法科大学院（研究科・専攻）名

(2) 所在地

(3) 学生数及び教員数

2 特徴

-1-

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻

II 目的

-2-

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻 第1章

III 章ごとの自己評価

第1章 教育目的

1 基準ごとの分析

1-1 教育目的

基準1-1-1

(基準に係る状況)

-3-

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻 第1章

基準1-1-2

(基準に係る状況)

-〇-

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻 第1章

2 優れた点及び改善を要する点等

-〇-

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻 第〇章

第〇章 〇〇〇〇

1 基準ごとの分析

〇-〇 〇〇〇〇

基準〇-〇-〇

(基準に係る状況)

2 優れた点及び改善を要する点等

-〇-

-〇-

-〇-

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻 第〇章

第〇章 〇〇〇〇

1 基準ごとの分析

〇-〇 〇〇〇〇

基準〇-〇-〇

(基準に係る状況)

2 優れた点及び改善を要する点等

-〇-

-〇-

-〇-

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻 第10章

第10章 施設、設備及び図書館等

1 基準ごとの分析

10-1 施設の整備

基準10-1-1

(基準に係る状況)

2 優れた点及び改善を要する点等

-〇-

-〇-

-〇-

注) は、評価報告書に原則として原文のまま転載します。

1

II 目的

1 目的

- (1) 教育上の理念・目的，養成しようとする法曹像等について記載
(2) 現在，周知公表している目的，及びその目的から派生する内容も含めて法科大学院の個性や特色が評価に活かされるように記載

◇ 記載様式

- ・ 適宜，項立て，箇条書きにするなど分かりやすく記載
- ・ 字数制限：２，０００字以内（横５０文字×縦４０行）
- ・ 明朝体９ポイントを使用

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻	
Ⅱ	目的
1	 ←
2	
3	. .
- 2 -	

【法科大学院の目的】

教育上の理念・目的，養成しようとする法曹像等について記載してください。

適宜，項立てをしたり，箇条書きにするなど分かりやすく記載してください。

III 章ごとの自己評価

第 1 章～第 10 章の自己評価

1 基準ごとの分析

解釈指針の内容を踏まえ「基準に係る状況」を記述

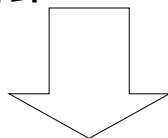
基準を満たしているかどうかの判断を行う必要はない。

2 優れた点及び改善を要する点等の記述

1 基準ごとの分析

- (1) 予備評価においては，学年進行中であるため「基準に係る状況」の記述が十分にできない基準については，その現状や計画の状況を記述
- (2) 取組や活動の内容等について，当該基準の状況が明確になるよう，根拠となる資料・データ等を示しつつ，それぞれの状況に応じ記述

「適切」，「適当」，「十分に」，「相当に」等の表現で示された基準や解釈指針



法科大学院が自ら考える「適切」性などに照らして，実際の状況がどのようなになっているのか，十分な根拠に基づいて分析し，明確に記述

（３）基準に対する自己評価の根拠となる資料・データ等

- ① 各基準に従って分析を行う際に必要と考えられる資料・データ等の例示

（自己評価実施要項 27－52 頁）

例示は必ずしも全く同じ資料・データを求めるものではなく、また、これ以外の資料・データ等が必要と判断される場合には、適宜提出

- ② 根拠となるデータを様式で求めるもの

（自己評価実施要項 53－56 頁）

（４）根拠となる資料・データ等の記載方法

- ① 本文中に記載した事項との関係が容易に確認できる位置に記載（資料・データの名称及び出典を明記）
- ② 必要最少限に整理（必要に応じて抜き出し，加工）
- ③ 本文中に記載することで，読みにくくなる場合には別添として記載可能
- ④ 外部に持ち出すことが困難なもの等については，例示として必要最少限の範囲を記載
→訪問調査時に確認
- ⑤ 根拠資料・データ等を本文中や別添として記載できない場合は機構に相談

2 優れた点及び改善を要する点等の記述

章ごとに，基準ごとの分析の中から法曹養成の基本理念や，法科大学院の目的に照らして，特に重要と思われる点を抽出し記述

- ・ 「優れた点」
- ・ 「特色ある取組」
- ・ 「改善を要する点」等

- ・ 基準ごとの分析

基準ごとに原則1,600字以内で記述(1,600字×54基準)

・ 優れた点及び改善を要する点等

章ごとに原則 1,600 字以内で記述 (1,600 字×10 章)

- ・ 全体で100,000字程度で調整可

- ・ 根拠資料・データ等は字数制限に含まない

- ・ 明朝体 10.5ポイント

III 章ごとの自己評価

第1章 教育目的

1 基準ごとの分析

1-1 教育目的

基準1-1-1 各法科大学院においては、その創意をもって、将来の法曹としての実務に必要な学識及びその応用能力並びに法律実務の基礎的素養を涵養するための理論的かつ実践的な教育が体系的に実施され、その上で厳格な成績評価及び修了認定が行われていること。

(基準に係る状況)

「データ名」

(出典)

基準1-1-2 各法科大学院の教育の理念、目的が明確に示されており、その内容が基準1-1-1に適合していること。各法科大学院の養成しようとする法曹像に適った教育が実施され、成果を上げていること。

(基準に係る状況)

「データ名」

(出典)

⋮

自己評価書様式ファイルに記載されています。

目的に照らし、解釈指針の内容を踏まえて、当該基準の状況が明確になるよう記述してください。

根拠となる資料・データ等は、状況説明等との関係が容易に確認できる位置に記載してください。(データ名、出典を必ず明記してください。)

以下、同様に、当該基準に係る状況について記述してください。

2 優れた点及び改善を要する点等

.

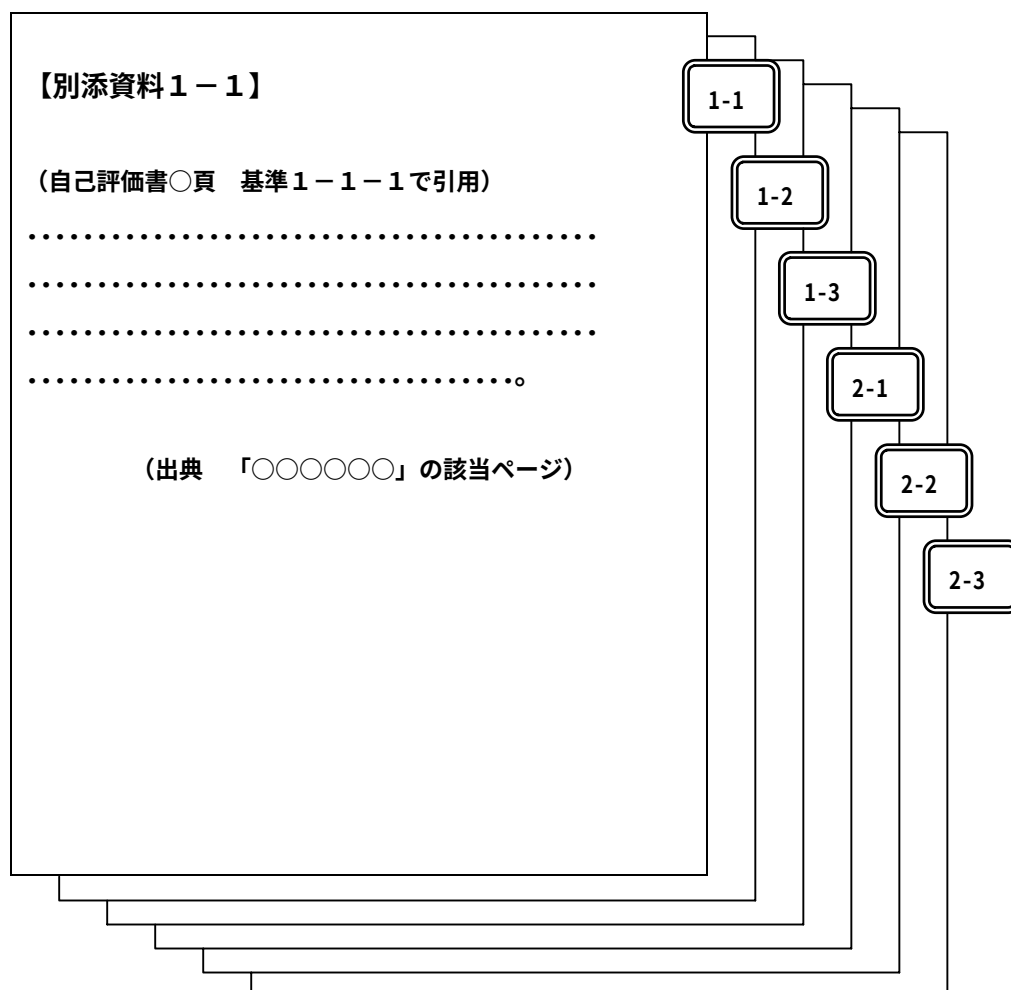
-○-

基準ごとの分析の中から、目的に照らして特に重要と思われる点を抽出し、記述してください。抽出する事項がない場合は「該当なし」と記述してください。

自己評価書の提出方法

- **自己評価書：10部**
（両面印刷，表紙裏は白）
- **自己評価書の電子媒体：1部**
（3.5インチFD，MO又はCD-R）
- **提出締切：平成17年7月29日(金)必着**
- **提出先：大学評価・学位授与機構評価事業部**
- **封筒表面の左側部に**
「法科大学院認証評価自己評価書在中」と朱書き

別添資料集イメージ1



別添資料集イメージ2

(シラバス等の冊子体に直接インデックスを添付する例)

